



これからの弘学は

学校法人弘前学院

学長 藁科 勝之



弘前学院大学は、創立百三十五年を迎えましたが、大学を取り巻く環境はますます厳しくなっております。真剣に本学の将来を考えねばなりません。国連が提唱したSDGs(持

中長期目標実施計画の確立・実践に向けて

学校法人弘前学院
理事長・学院長 阿保 邦弘



十四「教育改革の本丸」 『内部質保証システム』

新年度を迎えたが、未だに新型コロナウイルス拡大の勢いは収まらない。しかし、最近ようやく感染予防の切り札である、ワクチン接

第 84 号
(年 4 回発行)
編集発行 学会
前学 院 大 員
弘 報 委 員
印 刷 所
(有)小野印刷所

持続可能な開発のための目標」という言葉をこぞ存じましょう。「誰一人として取り残さない」という考えのもと、貧困に終止符をうち、地球を保護し、すべての人が平和と豊かさを享受できる社会を目指す、というものです。また、Society 5.0 という言葉もあります。AI、ビッグデータ、IoT、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に採り入れら

ることで、地域における国際交流の推進、国際化への直接的な拠点ともなる。なお、特にリカレント教育においては、介護福祉や保育等、地域特有のニーズも数多く存在し、地方公共団体と高等教育機関が、十分に連携して進める必要がある。」と述べています。(中央教育審議会答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」平成30年)

種が軌道に乗り始めた。職場接種も本格的に動き始め、本学の学生や教職員にもワクチン接種の準備ができた。7月のオリンピックのころには、感染の終息が見えていることを祈りたい。さて、前号までは「グランドデザイン答申」は何を提起したかについて述べてきた。ところで、「学修者本位の教育」「学習成果の可視化」「内部質保証」等の言葉が出てきたのは、

れ、さまざまな課題を解決しようとする社会の到来が予想されています。そして種々のデータ活用によって、各地域の潜在価値、ポテンシャルを引き出すことが期待され、地方創生が促される方向に向かうことが期待されるというのです。これらを受けて、中央教育審議会答申では、「高等教育機関特に大学の自発的な研究機能は教育機能とともに、地方創生にとって極めて重要な役割を担っている。それぞれの地域の社会経済、文化の活性化のリソースや、特色・誇りの源泉であるとともに、地元産業や新規の企業立地における好条件となり、更

には地域における国際交流の推進、国際化への直接的な拠点ともなる。なお、特にリカレント教育においては、介護福祉や保育等、地域特有のニーズも数多く存在し、地方公共団体と高等教育機関が、十分に連携して進める必要がある。」と述べています。(中央教育審議会答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」平成30年)

ところで地方という言い方はやめて地域と言うことにしますが、日本はすべてそれぞれ特徴ある地域の集合です。東京も青森と同じ、単に一つの地域です。そこで、地域の大学としての使命とは何でしょうか。日本各地域に大学が存在しているということは、それぞれの大学が、その特徴を以て、その地域の課題やニーズに対して何らかの取組をしている、と思っています。しかし本当でしょうか、まだ不十分なのではないか、という疑問

今回のグランドデザイン答申が初めてではない。十数年以上前の答申「我が国の高等教育の将来像」(2005年)や「学士課程教育の構築に向けて」(以下「学士力答申」2008年)の頃から、3つのポリシーの策定、学習成果、IR、FD・SDなどが強調されてきた。さらに、中教審答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」(以下「質的転換答申」2012年)では「3Pの策定」

定↓教育課程の体系化↓教育方法の工夫↓教育力向上↓学習成果の把握↓教育改善」が提案された。つまり、これら全体を動かす全学的教学マネジメントが強調され、そのサイクルを構築することこそが内部質保証であること示された。2017年からは、3Pの策定について法令で義務化された。中教審大学教育部会では、「3Pの策定及び運用に関するガイドライン」を発表した。

2021(令和3)年度 入学式挙行
4月3日(土)、新薬科勝之学長のもと、2021年度弘前学院大学並びに大学院の入学式を行いました。式は、新型コロナウイルスの感染拡大を極力排除するため、ご来賓の方々や保護者の皆様の参列をご遠慮して頂き、式次第も簡素化して行われました。文学部第51回、社会福祉学部第23回、看護学部第17回、大学院社会福祉学研究所修士課程第19回および文学部研究科修士課程第17回、総数名177の学生が入学されました。



(学長の式辞はHPに掲載しております)



そこでは、3Pの策定、シラバスに基づく授業改善、大学全体における教育改革という、3段階でのPDCAサイクルの構築が提示された。以上のことが、今回のグランドデザイン答申でも内部質保証システムの大きな柱として受け継がれることになる。次から、それらの内容について具体的に述べてみる。まず、「学士力答申」(2008年)では、3Pの明確化を一層め、組織的な教育を展開し、

一見異なる課題を、教育課程に具体化するという方向性が、ヒロガク改革の可能性の一つでもあるとみてよいでしょう。点がないだけでなく、学長のリーダーシップによる全学教育改革推進システム等の、実行責任を伴った体制構築という点で不完全であった。3PにしてもIRにしても、確実に改善に結びつくシステムが機能しないと意味がない。従来の教学運営システム(教職協働意識の欠落等)のままでの目的実現にはほど遠く、マネジメントにきちんと手を加える必要があった。(つづく)

学生への支援物資の報告

二〇二〇年度より行ってきた新型コロナウイルス感染症(以下コロナという)の影響下における学生への支援を報告します。

二〇二〇年十一月初旬に弘前市より「食で応援！学生支援事業」としてコロナの影響を受けている学生に対して、学生生活の安定及び学びの継続の支援を行いました。経済的に困窮している世帯である日本学生支援機構の給付奨学金受給者・留学生一七五名を対象に県産米及び特産品八品の詰め合わせを配布しました。

同じく二〇二〇年十二月下旬には、日本学生支援機構からの助成金と本学学生会からの援助金をもとに、全学生を対象に三〇〇〇円

を支給しました。

二〇二二年度においては、JAグループ青森による「大学生を支援するための県産米を贈る取組み」として、つがるロマン二キログラムの提供がありました。この支援は、JAグループ青森からコロナの影響下において、学生の健康維持と経済的不安の解消を図るために親元を離れ生活している自宅外通学の学生の生活を食の面で支援することが目的です。一〇七名の申込があり、六月二十一日には贈呈式が行われました。学生を代表し、社会福祉学部四年粒来太樹さん、留学生の文学部一年原藤飛さんの二名がJA青森中央会農業対策部部長松澤浩治様にお米



「大学生を支援するための県産米を贈る取組み」贈呈式

を受け取りました。このような支援をしたいという申し出により学生に対する支援を行うことができました。心より感謝いたします。

今後、コロナの影響を受けている学生への支援を行う予定であります。

研究紹介 49

知覚体制の形成と崩壊

文学部 英語・英米文学科教授 佐々木 正晴

眼を開けると、そこには、事象・事物の群れに隙間なく埋め尽くされていく。然らば構造化された視覚的世界が広がる。この視覚的世界は存在を支え、その行動展開の可能性を示している。人間が初めて眼を開くとき、この視覚的世界はどのような姿で存在しているのだろうか。

John Locke が記した『人間知性論』(1690)の補稿に、一通の書簡文が載せられている。「生まれつきの盲人が今は成人して、ほぼ同じ大きさの立方体と球体を触覚で区別することを教わり、それぞれに触れるとき、どちら

が立方体で、どちらが球体かを告げるようになったでしょう。それから、テーブルの上に立方体と球体を置いて、盲人が見えるようになったとしよう。問い。盲人は見える今、触れる前に視覚で区別でき、どちらが立方体で、どちらが球体かと言えるか。

1728年、イギリスの眼科医 Cheselden は先天性白内障で失明した13歳の少年に混濁した水晶体を除去する手術を施し、その手術後の状況を観察し、報告している。少年は手で触れば即座にわかる形や事物を眼で見てはそれがいったい何かわからないと

いう事態に直面し、興行きや色を捉える場面でも当惑が起きたという。眼で見る世界がその機能が学習的産物であることを窺わせる。

このような、一定の行動歴を経たから開眼手術を受けた人たちが共同実験を通して、形や事物の知覚の成立過程を追いかけています。

他方、視野が上下逆さになるめがねをかけたときと視座の位置に応じて逆転の意味が変動する。たとえば、正面に視座をおくと天地逆転になり、足元に視座をおくと「手前一向こう」の逆転が起り、顔を90度横に傾けると左右反転が起る(牧野、1963)。斜め前方に視座を置くと視界中心水平線が地面が反転し、足元から前方

に視点をあげていくと地面が下からせり上がるように見える。Stratton (1866、1897) は、まず3日間、その5ヵ月後に8日間、視野が180度回転する単眼鏡を右眼にかけ、当初はすべてが逆さに見え、行動につきまき起るが徐々に適応的になり、「外界は再び正立して見えるようになった」と書いている。

オンライン学会

文学部 准教授 坂井 任

新型コロナウイルス禍で様々な日常が変わった中、大人数が集まる会合は開催が困難となった。そのようなわけで、1万6000人の会員を抱える日本物理学会は、数千人が参加するため現地開催は不可能となり、今秋もオンラインで行われることが決定している。

そう言うと、失われた日常の恨み言を述べるのかと思う人もいるだろうが、実はいろいろと良いこともある。そこで、ここではオンラインになってどのような変化があったかを紹介する。

まず、現地開催ではホテルを取るのが本当に大変であった。大所帯で押し寄せる上、アイドルのコンサートで混雑が予想されるか

ら、早く予約するようにという通知が半年も前に入ることもたびたびであった。会場の移動や、収容人数の見込み違いで立ち見など、体力を取られることも多かった。学会は通常と同じ日程・時間帯で行われるが、専門分野の研究会やセミナーなどでは変則的な開催時間も多くなった。夕方から始まって夜11時頃終了というものもある。

理由の一つは、おそらく日中にオンライン授業などがあるので、参加しやすい時間になっているのだろう。だが、もう一つオンラインならではの理由がある。時差を利用して欧米の研究者に参加してもらうのである。日本は夜、アメリカは朝ということである。連続した

日ではなく、とびとびの日程で行われることもある。現地開催では考えられないことである。空間や時間の制約が取り払われ、自由度が大幅に増した。

元治二年(一八六五)序『奥州道中記』が翻刻された。津軽方言をよく知る人物が著した滑稽本である。刊行にあたり、読解に必要な語釈や解説が細やかに付され、容易に読み進めることができる。ここに紹介したい。

紹介 葦科勝之氏校注『奥州道中記』

文学部 日本語 日本文学科教授 入江 英弥

本書では、校注者の葦科勝之氏が一九八五年に弘前市立弘前図書館において発見された写本を底本とする。ほかに異本が見つかったりしないとのことで、大変貴重な書物といえる。他書に見えないカラカラ(空然、カリカへ(代わり換え、あるいは、代わり代わりの転化か)といった津軽方言や、文獻上の初出例とみられるヘコダマル(閉口する)、ウジヤネトル(難儀

する)といった津軽方言が散見され、学術的な価値がきわめて高い。本書の刊行により、こうした価値ある資料に直接触れられるようになったことは大変ありがたい。

著者は「一遍半舎四半九」とし、江戸商人の「弥次郎兵衛」と家来の「北八」が道中好きで、「松前行きを志し、大館の商人佐吉を案内役として羽州街道を大館から弘前」まで旅した際の道中記だといふ。近世後期においては、十辺舎一九番東海道中膝栗毛が大流行し、その続編が次々に刊行された。本書はそれを引き継ぐものとして記されたことがわかる。

「北八」が道中好きで、「松前行きを志し、大館の商人佐吉を案内役として羽州街道を大館から弘前」まで旅した際の道中記だといふ。近世後期においては、十辺舎一九番東海道中膝栗毛が大流行し、その続編が次々に刊行された。本書はそれを引き継ぐものとして記されたことがわかる。

そのほか、「碓ヶ関」の川魚のカジカ料理、「大鰐名物もやし」などの名物や、川越えに際して

困っていた弘法大師に親切にできなかったことから水な川になったとする「千年川」(大和沢川のことか)の由来を説明する話など、土地の情報が豊富に記されていることも付言しておきたい。



校注者の葦科氏は弘前大学文学部教授、副学長を経て、本学文学部教授。本年四月より学長に就任されている。近世国語学を専門とされ、ほかに『雑字類編』影印・研究・索引(ひたく書房一九八一年)などの著作がある。なお、本書は二〇二〇年三月に北方新社より発行された。総頁数一四六頁。定価一五〇〇円十税。

二〇二一年度 特待生授与者

二〇二一年度(令和三)年度の弘前学院大学特待生に、五月二十六日(水)十二時より賞状の授与が行われました。今年度の授与者は次の方々です。

◆文学部

- 2年 福士さくら
- 3年 鶴ヶ谷朱梨
- 4年 鈴木 滋

◆社会福祉学科

- 2年 工藤 果乃
- 3年 太田 希
- 4年 野呂 汐里

◆看護学科

- 2年 井上 明
- 3年 奥崎 彩聖
- 4年 中田日向多

*一年生については、前期成績発表後の十月に授与予定です。



社会福祉士・精神保健福祉士 国家試験について

社会福祉学部 社会福祉学科長 柘植 秀通

本学の社会福祉学部は、創立以来、ながらく社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験合格率が、全国の中でも、かなり下位に沈む状態が続いてきました。しかし、ここ数年、新卒の合格率が著しく上昇し、昨年はついに、青森のみならず、全東北の

父母と教職員の会 総会書面議決結果

例年、五月下旬に開催しておりました父母と教職員の総会は、昨今の新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から今年度は書面議決にて審議を行いました。



- 第一号議案
- 二〇二〇(令和二)年度活動報告
- 第二号議案
- 二〇二〇(令和二)年度収支決算
- 第三号議案
- 二〇二一年度(令和三)年度活動計画
- 第四号議案

- 二〇二一年度(令和三)年度収支予算
- 第五号議案
- 役員改選
- 会長 佐藤 和博 (本学教授)
- 副会長 今井 哲(留任)
- 監事 村上 伸江(留任)
- 監事 佐々木正晴 (本学教授)
- 顧問 藁科 勝之(学長)

- 今年度の父母と教職員の会の年間行事は、新型コロナウイルスの影響で未定ですが、開催が決まりましたら、別途ご案内をお送りする予定です。
- 新任紹介
- 看護学部
- 助手 村上翔太郎
- 事務職員
- 入試広報センター次長 福原 直樹
- 電子機器管理センター 木村孝太郎
- 学務課 片山 康夫

- 退職
- 学長・教授 吉岡 利忠
- 文学部 准教授 生島 美和
- 事務職員
- 学務課長 古山 哲司
- 就職課長 野呂 昌文
- 学務課 玉井 厚
- 図書館 外川野の香
- 学生・就職課 (入試広報センターより) 五十嵐 徹
- (看護学部学生課より) 古川ありさ
- 図書館 (看護学部総務課より) 成田ひらり

で、2・3週間に一度の模擬試験実施が主だったところに、毎週勉強会を行うことと、その指導の下、学内での勉強の奨励が加わった形が、現在の支援の中心です。毎週・毎週の学習と督促、そしてミーティングルームにおける定例の学習会(これは、ある時間を決めてというよりも、常にそこに誰かがいて学校が開いている間は、勉強の輪が切れることがない状態にあることが重要な会です)により、学生の意識の転換、勉強をしなげれば、また、彼には彼女には負けたくないという、ライバル意識の目覚めが、学生の勉学を大きく支えてくれているのです。このように、学生の意識の転

換によって、決して入学の偏差値がよいとは言えない、本学においても、全国において上位に位置する国家試験合格率を達成することが可能となっているのです。本学に、最も必要なものは、この学生の意識の覚醒であり、それこそが本学の合格率を支えてくれている本当の主役といえます。もちろん、勉強会を行うミーティングルームが、教員たちの研究室に近く、折々に質問できる環境にあるということも、見逃せない重要な要因とは言えますが、もし学生が試験について聞きに行こうとの意欲を持たないのであれば、絵に描いた餅にすぎません。このような意欲を持ってくれた学生の存在

こそが、本学の合格率を大きく飛躍させた一大要因と言えるでしょう。もちろん、そのために教員側からの働きかけは、とても重要であり、多くの時間をそのために費やしていることも事実です。先述のように、毎週水曜日には、通常の授業以外の時間で、勉強会・模擬試験を実施していますし、3年生向けに、ひと月に一度、土曜日に、模擬試験の機会を提供しています。これらの努力が、不可欠であることは、論を待ちませんが、学生の意識の覚醒こそが、この成績を達成した主因であること、私たちが大事にしており、今後も、この働きを続けていきたいと思っております。

人 事 異 動

2021年度 学 科 長 ・ 主 任 紹 介

- 学長・教授 薬科 勝之
- 学生主任 葛西 久志
- ◆文学部
- 教授 教授 佐藤 厚子
- 看護学部長 看護学部長 田中 真実
- 学務主任 准教授 学務主任 田中 真実
- ◆社会福祉学部
- 社会福祉学部長 柘植 秀通
- ◆看護学部
- 学務主任 准教授 学務主任 田中 真実

「英語で切り開く未来」

文学部 英語・英米文学科1年 三上 夏実



私の将来の夢は、観光ガイドになることだ。そのために私は英語の勉強に力を入れている。

私が英語と初めて出会ったのは小学生の頃だった。その時初めて外国人に出会った。その人はALTと呼ばれ、まだ全然英語の楽しさが分からなかった私に英語を使ったゲームなどを楽しくさせてくれた。

そして私は中学生になって、

学芸員を目指して

文学部 日本語・日本文学科1年 長野 和夏



私の夢は学芸員になることです。元々、高校では一番学んでみたかったことが理系のものですが、理系クラスだったのですが、あるゲームをきっかけに文学部で学んでみたいと思うようになりました。

ゲームの名前は「刀剣乱舞」というもので、刀を擬人化したというゲームです。小さい頃から、日本の文化や歴史が好きだったので、この文化や歴史が大好きだったということがあります。

この時代や持ち主だった歴史上の人物、歴史上の人物が生きていた時の出来事を、ゲームを通して

より英語の楽しさについて触れることになる。はじめはあまり興味を持たなかった英語であったが、ALTと授業以外でも積極的に話をするようになったおかげでだんだん英語が好きになっていった。また、英語の先生のおかげもあって段々と英語の成績が伸びるようになった。私は今でも当時の英語教師に心から感謝している。

高校に入学した後は当時のALTや英語教師とは会っていないが教えてもらったことを懸命に生かそうと思って生活して

た。高校では中学の英語とは違い、はじめは分からないことが多いが多かった。だが、その時に私は既に将来は英語を使った職業に就きたいと思っていたので必死に毎日の勉強を頑張っていた。検定にも積極的にチャレンジするようにし、分からないところがあれば自ら教師に質問しに行くなどできる限りのことをするようにした。

高校時代はお互いに支え合って共に生活していたので、私は大学生活でも、分からないところがあれば教え合おうといったことをしたいと考えている。

私は大学生になるまでは不安なことが正直多くあった。

来てとても楽しい、もって学びたいと思いました。大学生活はこれからなので、知識を身につけつつ自分の知らないことについて学んでいきたいです。また、私が学芸員になりたいと思ったのは、自分が日本の歴史、文化について知っていく上で、日本のことを学ぶことはこんなに楽しいんだと沢山の友人に知って欲しいからです。有名なものでも、調べていくと意外と知らないことが出てきたりと、結構色々なことが発見出来ます。

学芸員を目指す上で、私は沢山の友人達に興味を持ってくれる小さなきっかけを作れたらと思います。

今は、新型コロナウィルスの影響で出来ることが限られています。自分自身のやりたいことを見失わずに大学で様々なことを学んでいきたいです。

手紙とペン

社会福祉学部 社会福祉学科1年 三上 真佳



友人はきちんと出来るのだろう、勉強について行けるのだろうかという不安だ。しかし、幸い、私は沢山の友人に恵まれて毎日楽しい日々を送っている。そして勉強面では、課題の提出や毎日の勉強に追われる日々を送っているが、徐々に慣れてきている。

また、私は大学で、アルバイトに挑戦したいと考えている。高校では経験することがなかったが、今までの見方とは違った捉え方を養い、将来に繋げていきたいと思う。



新入生の夢と希望 「私の夢」

患者・家族に寄り添える看護師を目指して

看護学部 看護学科1年 石郷岡 優花



私の夢は、笑顔で接し、患者さんの立場に立って物事を考え、どのような対応が良いのか適切に判断できる看護師になることです。

私の姉は、今年弘前学院大学を卒業し、看護師の国家試験に合格しました。そして、春から看護師として病院で働いていま

えています。コミュニケーションの取り方自体は、これまでの生活の中でも十分に学ぶことが出来たと思いますが、社会福祉士として必要になる能力は、今まで培ってきたものが土台となり、今後は「聴く力」が重要になるのではないかと思います。そして、新型コロナウィルスで取りづらくなってしまったコミュニケーションをとれるかということについても考えたいと思っています。

私はまだ、将来という紙に資格取得以外のことは書いていません。だからこそ考えがまとまったとき、ペンでしっかり書けるように、本学の恵まれた学習環境の中で日々出来ることを着実にこなし、自分の紙に書いた希望を達成できるように努力したいと思っています。

見た祖父に、優しい言葉遣いや笑顔で対応していただきました。また、祖父だけではなく家族にも優しく接してくれました。この看護師のように患者さんだけではなく、患者さんの家族の不安を取り除けるような笑顔で接することのできる素敵な看護師になりたいです。そして、多くの患者さんに元気になってもらいたいです。

弘前学院大学に入塾して、約3カ月が経ちます。高校の頃と比べて課題やレポートが多く、1日の時間がとても早く感じます。時間の使い方を工夫して、学習に取り組んでいきたいです。また、これから中間試験や定期試験があるので、時間を

4年間の学生生活を充実させて、国家試験に一発で合格し素敵な看護師になるという夢を実現させたいです。